

2025年3月21日

## 総合的なコメント

事業開設から3年目を迎え保護者等からの児童発達支援での事業所評価の結果では、保護者の方々は多くの項目で満足されていました。ただ、保育証等訪問支援では、保護者からの評価が高い一方で、園側での評価が余り満足されていない傾向が見られています。園側での保育所等訪問支援としての活動が余り認知されていないことが原因として考えられる。

インクルージョンとしても地域の切れ目無い支援として相互に理解しあい実施していく理念の浸透を行政ともタイアップして重要と思われる。

貴事業所が児童発達支援事業として、子ども達に提供しているサービスの質は高く、社会的に大きな貢献があると評価いたします。職員の定着率が悪い一方更に専門性の高いスタッフの入職に依り事業所全体の技量が高く成長し進化しているように思われる。その中で、事業所や保護者の方が指摘した点についていくつかの課題点が見られますので、以下項目でコメントを記載いたします。

### 1 プログラムの多様性と個別対応

子どもたちが自分に合ったプログラムに参加できるよう、プログラムの多様性と柔軟性を高めることが今後の課題となります。子ども達の興味やニーズに応じてプログラムを調整することで、より効果的な支援が可能になります。そのためには、子ども達個々のアセスメントが重要なカギとなります。また、その内容を保護者の方にどのように伝えるのかという点も必要です。日々の連絡帳、個別支援計画、モニタリング、支援会議等での活用が望まれます。

### 2 保護者と施設・保護者同士のコミュニケーション

交流会や保護者同士の連携等に開始されていますが、まだ充分とはなっていないように感じます。。実際には利用者様の家庭環境は多様であり、交流会等を開催するのは難しい点もあります。保護者がこのような活動に積極的に参加しやすい環境を整えることも、家庭と施設との連携を強化する上で有効だと思われれます。例えば、就学前にサポートブックの作成ワーク等保護者のニーズを取り入れた交流会等を工夫していただきたく思います。

### 3 保育所等訪問支援の標準化

ABAのスペシャリストがスタッフとして所属しているので、有意義な保育証等訪問支援ができるのではないかと思います。園側との保護者の認知、理解を深める為のフィードバックも含め支援員の観察部分を標準化するためのマニュアル、アセスメント評価の可視化し易くするための結果報告書のテンプレートの作成を試みても必要などころに来ていると思います。

### 〈総括〉

様々な職種が専門性を生かしつつ、連携して日々の子供たちの対応について熱心に取り組んでおり評価できる。保護者アンケートの結果からも9割以上の保護者が「支援に満足している」と解答されており質の高い支援がされていると思われる。

設立後日が浅いこともあるが、職員全体の身体拘束に対する決め事、非常災害時の対応については改善の余地があります、更なるセミナー参加活用の時間的工夫、外部企業の研修ツールのe-learningも試みることも提案します。。

神戸教育短期大学 こども学科 准教授

中塚 志摩

奈良学園大学保健医療学部リハビリテーション学科 教授

柴田 政彦